

千葉市感染症発生動向調査情報

2025年 第19週 (5/5-5/11)

1 定点把握対象感染症(五類感染症の一部)

定点	報告定点医療機関数			
	第19週	第18週	第17週	第16週
小児科	16	15	16	16
ARI(急性呼吸器感染症)	26	25	26	26
眼科	5	5	5	5
基幹	1	1	1	1

上段: 報告患者数、下段: 定点当たりの報告数

定点当たりの報告数: 報告患者数/報告定点医療機関数

定点	感染症	発生動向	5/5-5/11 第19週	4/28-5/4 第18週	4/21-4/27 第17週	4/14-4/20 第16週
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	4 0.27	2 0.13	2 0.13
	咽頭結膜熱		3 0.19	3 0.20	7 0.44	3 0.19
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		41 2.56	40 2.67	66 4.13	53 3.31
	感染性胃腸炎	↓	61 3.81	67 4.47	116 7.25	97 6.06
	水痘		3 0.19	5 0.33	5 0.31	6 0.38
	手足口病		0 0.00	0 0.00	2 0.13	3 0.19
	伝染性紅斑	★★★↑	33 2.06	24 1.60	40 2.50	44 2.75
	突発性発しん		5 0.31	5 0.33	6 0.38	9 0.56
	ヘルパンギーナ		0 0.00	1 0.07	0 0.00	0 0.00
	流行性耳下腺炎		0 0.00	0 0.00	3 0.19	4 0.25
ARI	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)		11 0.42	12 0.48	39 1.50	30 1.15
	新型コロナウイルス感染症		3 0.12	14 0.56	26 1.00	24 0.92
	急性呼吸器感染症	↓	1,131 43.50	1,405 56.20	1,777 68.35	1,558 59.92
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎	↑	5 1.00	2 0.40	6 1.20	8 1.60
基幹	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	インフルエンザ入院		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	新型コロナウイルス感染症入院		1 1.00	1 1.00	1 1.00	2 2.00

※「発生動向」欄のマークについて

< 流行状況 >

★★: 「警報レベル」流行発生警報開始基準値以上(終息基準値を下回るまで継続表示)

★: 「注意報レベル」流行発生注意報基準値以上

※警報レベル・注意報レベルについては、市感染症情報センターWebSiteの「警報・注意報の解説」のページをご覧ください。

< 増減 >: マークの対象は当該週又は前週の定点当たりの報告数が1.00以上

↑・↓: 「増加・減少」定点当たりの報告数が前週より5%を超えた増加または減少

2 全数報告対象感染症 24 件

感染症		性別	年齢層	感染症	性別	年齢層・件数
結核	(患者)	男	10歳代	百日咳(18件)	女	10歳未満 1
	(患者)	女	20歳代		男	10歳未満 1
	(患者)	女	70歳代		女	10歳代 4
腸管出血性大腸菌感染症		男	70歳代		男	10歳代 7
侵襲性インフルエンザ菌感染症		男	50歳代		男	20歳代 1
梅毒		女	20歳代		女	30歳代 1
-	-	-	-		女	40歳代 2
-	-	-	-		男	60歳代 1

結核3件(50)、腸管出血性大腸菌感染症1件(7)、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件(2)、梅毒1件(27)、百日咳18件(98)の発生届があった。

※ ()内は2025年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

3 定点当たり報告数 第19週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

前週からほぼ変化なく2.56となった。過去5年の同時期と比べやや多い。年齢階級別の報告数は7歳が最多。

<感染性胃腸炎>

前週より減少し3.81となった。年齢階級別の報告数は1歳が最多。

<伝染性紅斑>

前週より増加し2.06となり、再び流行発生警報開始基準値(2.0)を上回った。過去5年の同時期と比べ最多のまま。年齢階級別の報告数は4歳が最多。

<急性呼吸器感染症>(第15週から調査開始)

前週より減少し43.50となった。年齢群別の報告数は1-4歳が最多。

<流行性角結膜炎>

前週より増加し1.00となった。過去5年の同時期と比べると最多のまま。年齢階級別の報告数は30-39歳が最多。

<新型コロナウイルス感染症入院>

前週から変化なしで1.00となった。

■ 各感染症のグラフ、インフルエンザ発生状況は、市感染症情報センターWebSiteでご覧いただけます。

・感染症発生グラフ

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2025.pdf>

・インフルエンザ発生状況

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/influ2025.pdf>

■ トピック ■

<伝染性紅斑>

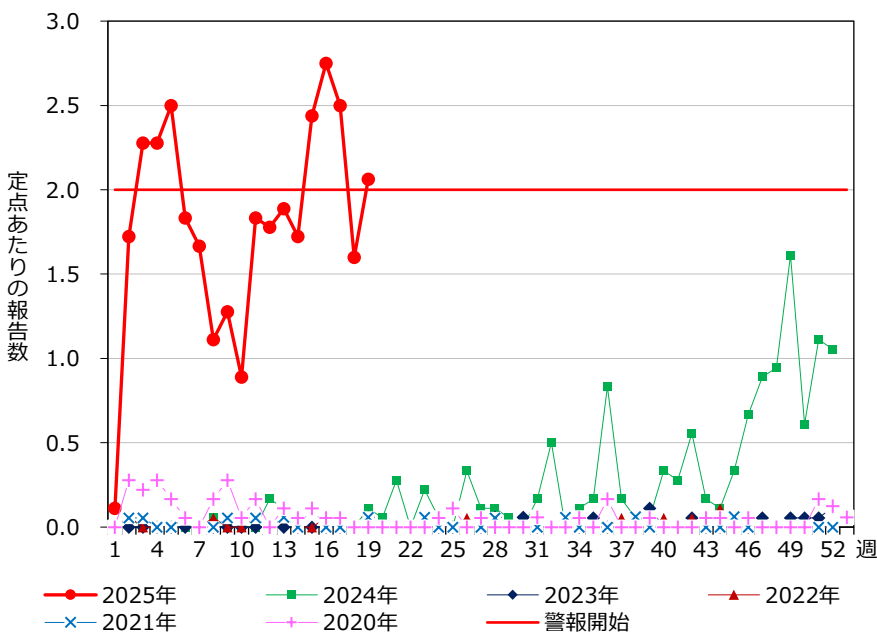
全国の第18週現在の定点当たりの報告数は、前週より減少し1.16となりましたが、過去5年の同時期と比べると第2週から連続して最多のレベルで推移しています。都道府県別では、栃木県(4.48)が最も多く、次いで群馬県(3.72)、山形県(3.71)の順となっています。千葉県は1.10で、全国レベルより少なくなっています。

千葉市の定点当たりの報告数は、前週より増加し2.06となり、再び流行発生警報開始基準値(2.0)を上回りました。過去5年の同時期と比べると最多のままとなっています(図1)。

感染しても予後は良好ですが、妊婦が感染すると、ウイルスが胎児に垂直感染し、流産や死産、胎児水腫を起こすことがあります。

感染経路は通常は飛沫感染又は接触感染であり、手指衛生、咳エチケット等の一般的な衛生対策や体調不良時は自宅で安静にすること等、うつらない・うつさない予防対策が重要です。

図1 年別・定点あたりの報告数(2020年第1週-2025年第19週)



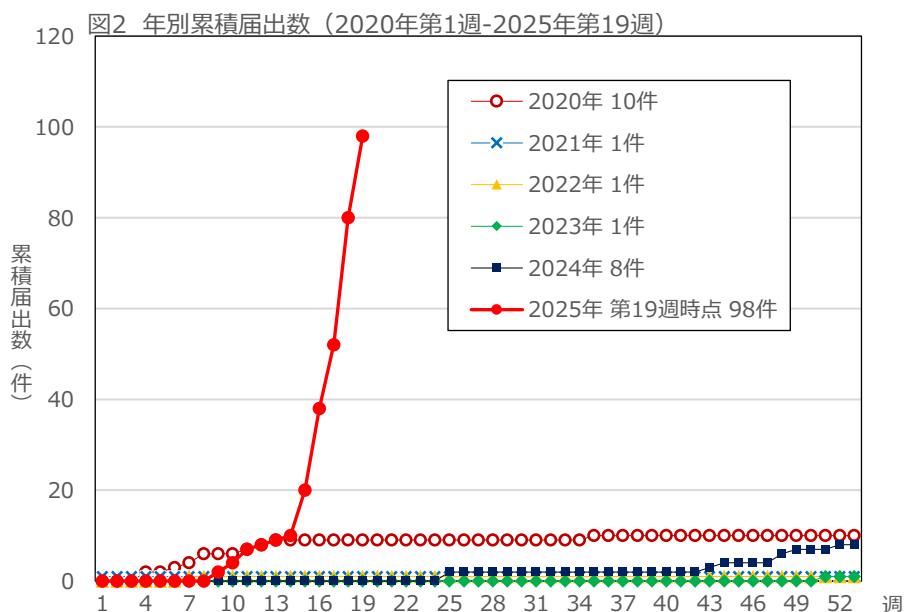
＜百日咳＞

全国の第18週現在の累積届出数は14,267件となり、調査が開始された2018年(11,947件)を上回りました。都道府県別では、新潟県(1,028件)が最も多く、次いで東京都(982件)、大阪府(878件)の順となっています。千葉県は479件で全国で9番目の多さとなっています。

千葉市では第19週に18件の届出があり、2025年の累積届出数は98件となりました(図2)。

成人では咳が長期にわたって持続しますが、症状が典型的でないため見逃されやすいことがあります。菌の排出があるため、ワクチン未接種の新生児・乳児に対する感染源として注意が必要です。

千葉市のサーベイランス結果では、夜間の咳き込み、持続する咳が多くを占めています。思い当たる症状がある場合は医療機関を受診し、適切な治療を受けましょう。



※感染症発生動向調査とは、感染症の発生情報の正確な把握と分析、その結果の国民や医療機関への迅速な提供・公開により、感染症に対する有効かつ的確な予防・診断・治療に係る対策を図り、多様な感染症の発生及びまん延を防止することを目的としています。

＜参考＞千葉県感染症情報センター

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/index.html>